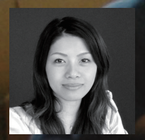
edd interview



Nakamura Orie
2002 年卒業（環境）

中村 織絵 ／ FIELD FOUR DESIGN OFFICE

当学科を卒業して早 3 年が経つ。社会に出た今、自分で解き、形にする責任と決断、そして経験…力及ばず荒波に悩むことも多々ある。<立ち返る原点＝大学>物事を広いレンジで捉える姿勢。デザインの視点、創作への情熱、そして何より時間を惜しまず悩み、様々な時を共有しあった友人。たった 4 年間だが、至大である。彼らは今もなお、刺激し高め合う良きライバルであり、かけがえのない存在である。後輩にも多くの出会いの中でそれぞれの原点を築き上げて欲しい。

Utsumi Tomoyuki
1986 年卒業（建築）

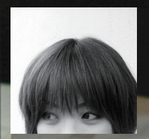
内海 智行 ／ミリグラムスタジオ一級建築士事務所／代表

デザインは社会との関わりの中で生み出されます。如何に関わり、何を生み出すか・・・作る側の主体性や問題意識はもちろん大切ですが、一方で自分にとって大きな力になるのは依頼者からの信頼だと思っています。信頼の形はいろいろありますが、それは小さな結果を積み重ねることで獲得するしかありません。無限の可能性の中で、今こそ妥協に屈することなく結果を積み重ねるための人間力を養ってください。コミュニケーションのむこうに新しい自分が見えてくると思います。

Kurita Toru
1990 年卒業（建築）

栗田 融 ／九州産業大学芸術学部デザイン学科講師
MELTING POT DESIGN SHOP 主宰

私は、人の関わる場のデザインに携わりたいという思いから、多摩美に入学しました。学生時代から今に至るまで、興味の向くモノにはとにかく関わろう！っと、、、結果的には、右往左往しているように思います。ただし、そんな動きの中でも、自分の目指したいことや興味のあることを表明することで、求めるだけでなく入ってくる情報があり、それが何らかの影響を与えてくれていると感じます。皆さんも、五感六感を駆使し、実感を頼りに夢を追い、表し続けて行ってください。



Yano Misa
2004 年卒業（環境）

矢野 光紗 ／ Cesar Pelli & Associates Japan, Inc.
Jun Mitsui & Associates, architects.

日光浴しながらスケッチかくのが大好き。デザインって、イメージする過程が不可欠だし大事だと思うからゆっくり考えたりスケッチしたりする時間を大学生活ではたくさんもってほしいです。4 年間はそんな時間をとりつつ、友達とたくさん話もできたし本当に楽しかった！

Tamaki Junpei
2006 年入学（環境）

玉置 潤平 ／環境デザイン学科 1 年

入学前は、インテリアがやりたいとただ漠然と考えていました。しかし、段ボールの課題を終え、竹課題で普通の生活では体験できないような伐採に参加し、実際に竹に触れたりすることによって、インテリアという一つの括りにとらわれない広い視野を持つことができました。そして、楽しい友人を作ることができました。部活やサークルに参加することで他学科の友達も多くでき、そこから環境以外のさらに広い分野にも感心を持つようになりました。

kachi Yukiko
2005 年入学（環境）

可知 友貴子 ／環境デザイン学科 2 年

先生との距離が近く、自分の考えをぶつけると、思いっきり返してもらえる。だから、もっともっと考える。それが楽しい。また、友達との距離が近く、いろんな人と一緒に考えていくと考えがふくらむ。それも楽しい。
1 年生とは違い、デザイン室が大部屋になったことで、先輩との距離も近くなり、先輩の意見や考え方を聞くと、いろんな事をしてみたくなる。もっともっといろんな事をやりたくなったし、がむしゃらになる事がとにかく楽しい。

Watanabe Maki
2003 年卒業（環境）

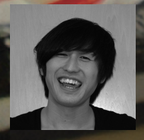
渡邉 麻希 ／カワカミデザインルーム

私は現在の仕事を紹介された時、自分を見てくれている人はいるのだと実感しました。だからマイペースに自分のやりたいことを目指すといいと思います。但し、そのチャンスが来るために日頃から努力し、後悔しないための準備をする必要があります。その準備の 1 つとして、多くのことを経験してほしいです。経験はその人の糧になり、何よりも説得力のある強みになります。広い視野でジャンルに捕われることなく、積極的に吸収する志を常にもって学生生活を楽しんでください。

Suzuki Junichi
1991 年卒業（建築）

鈴木 淳一 ／㈱竹中工務店

実家にある埃を被った卒業設計の模型を見ると、いつも何故か 1 年生最初の模型課題を思い出します。制作が遅れ地盤の部分が残ってしまいました。傾斜を表現する為のメッシュが柔かく、うまく出来ません。なんとか提出しましたが砂上の楼閣と評されました。時間を上手に使えず、素材の特性を掴めず、自分の感性を表現しきれず、受け手に認めてもらえない悔しさ。そして今、同じ事に今日も私は対峙し続けています。「心に想うことの実現」を念じつつ。一緒に頑張りましょう。



Hirata Shinichi
2004 年入学（環境）

平田 進一 ／環境デザイン学科 3 年

2 年生の頃はインテリアコースを選択したけれど、インテリアの課題を選択したのは結局 1 回だった。コースにとらわれず、課題ごとに勉強したいこと、作りたいことを自分で判断して選択できることで、常に積極的に制作ができて楽しい。そして、3 つのコースに分かれていても‘空間’をデザインしているという意味で、全部同じことをしている。空間の中で生きているから、空間をデザインすることは生きることを考える事だと思う。だから、環境をデザインするって事がおもしろいと思った。

Inagaki Hiroshi
1971 年卒業（立体）

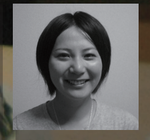
稲垣 博 ／株式会社 乃村工藝社

最近は、国立科学博物館の展示デザインを軸に仕事をしています。最大の楽しみは小さなお子さんが展示物にくぎづけになっていたり、友達どうしで何かを発見したり納得したりして、思わずニッコリしているのを見ることです。人が何かに出会って面白いとか楽しいとか、生きていることに前向きな気持ちになっている時だとも言えるのでしょう。質の良い空間や環境のデザインを達成すると、こんな場面を楽しめる時があります。まだまだこの充実感を楽しんで行きたいと思います。

Mizutani Masafumi
2001 年卒業（環境）

水谷 雅文 ／内田デザイン研究所 チーフデザイナー

この仕事をしていて、常に「デザイン」という言葉の可能性について考えます。デザインの領域というのはやればやるほど広がっていくものです。様々のものがデザインの対象となり、触れることができ、感じることができます。デザイナーとして確かな知識と技術力を持ち、広がっていくその可能性を大きな力に変え社会に発信していってください。



Sei Eriko
2003 年入学（環境）

清 絵里子 ／環境デザイン学科 4 年

私は環境デザイン学科に入りたくさんの感動を味わいました。以前、産学共同でスーパーの内外装、アプリケーションを提案したことがあります。それが完成するまでには何度も案を練り直し、多くの時間と手間を掛けました。その後オープンしたスーパーにお客様が入って行く姿を見たときは、実現した嬉しさで胸がいっぱいになりました。紙の上だけにとどまらず、相手がいてその人達の為に最もいいものを作りたいと考え、実現に向け努力していく、そんな体験が出来る環境デザイン学科は私を大きく成長させてくれたと思います。

※ 環境デザイン学科（環境）は、1998 年の学内改組により、旧建築科（建築）と、旧立体デザイン専攻インテリアデザイン専修（立体）と、新たにランドスケープデザインが加わり構成されています。